

T W A N G

BOXER SERIES

ZINGER SERIES

MASTER SERIES

VINTAGE SERIES

SIDEKICK SERIES

KEYMAN SERIES

by
Fender

BOXER

series




フェンダーらしさの未来を追求した成果は、とてつもない個性となってシーンを一閃した。複弦ライトハンド、アーム専用ムービングトリプル、ダブルバンドチューニングetc、etc……とまることを知らぬギタリストのハイテク奏法をピタリと決め、さらに新しい奏法までも発見してゆく(時代によさわしい)エレクトリックギター。——このテーマへの回答をフェンダーはアーチストリレーションから得た、「人間の感性に接近したギター」BOXERシリーズに結集しました。



リングトーンを披露する革新メカ TBX CONTROL™

中点クリックの付いたトーンコントロール。従来のパツツタイプと同様ハイカットトーンコントロール(ワット&ウォームトーン)に加え、高域のレゾナントビー(共振周波数)を上げフェンダーシングルサウンド特有の突き抜けるようなリングトーンを獲得します。ディストーション時のハイアタッキーなハーモニクスサウンドにゴージャスな質感を披露します。(BOXERシリーズ Fender ギター&ベース全モデルに採用)



パワーを語り、テクノロジーを誇るのも良い。BOXERは、それにテイストを加えた。

確かに高出力である方が、プレイヤーにとってはありがたいかもしれない。しかし、高出力にすることで失われてゆく微妙なレゾナンスや音のクオリティを考えてみたことがあるだろうか。フェンダーはエレクトリックサウンドのプロとして、それを深しきまで探して、一部分のプレイヤーに歓迎されるギターであるより、ジャンルを超えるギターでありたいのです。パワーもメカニズムもそれをコントロールするのは人間です。とすれば、無機的に音を出すだけのギターが人の心を打つとは到底思えません。BOXERシリーズが開発コンセプトの第一番目に置いたもの、それはごくごく当たり前、現代が置き去りにしてしまった「テイスト」の主張です。そしてこのコンセプトはピックアップに、精緻なディバイスに、パーソナルなコントロールやライト&スムーズなスケール、そしてスタイリッシュなフォルムに刻まれています。

真のピックアップバランスを追求。 新開発BOXERパワーバランスPU

ピックアップというタフネスやパワーをイメージしがちです。しかし、ピックアップほど敏感で繊細で、デリケートなメカニズムを抱えているパートはありません。フロントPU付近では弦振動は大きく従ってPUの出力は上がり、逆にブリッジ側では振動は小さく、フロントに比べパワーは落ちます。メーカーは従ってハイパワーをうたいますが、むやみやたに高出力設定のPUはハウリングやノイズの発生を誘うことはあっても、人を誘うことにはないのです。BOXERシリーズは、惜しみなく時間をかけ、フロントにはフロントに過し、リアにはリアにレスポンスするコイル&ポールピースアレンジとワイヤリングを配した Power Balance Pickupを新開発。スムーズ&メロウなフロント、パワフル&クリアネスのリアPUで真に高出力、高感度、高品質と呼べるPUを実現しました。



ナンバーはPUの性格を表示しています。

BOXERシリーズの3ケタ品番の末尾数字は搭載ピックアップの数とその性格を表示しています。
1……ハムバッカー×1 5……ハムバッカー×2
6……シングル/シングル/ハムバッカー
7……シングル×3搭載の意味です。

